

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 12月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 12月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士や作業療法士など専門的な知識を持つ指導員がいる。	資格を持つ職員や実務経験の長い職員が多いので、多角的な視点からプログラムを組み立て、他職員へのアドバイスをを行うことが出来ている。支援を実施することが出来、保護者への的確なフィードバックや職員間での療育内容の相談やアドバイスをを行うことができる。	それぞれの専門的知識や経験を共有して、事業所全体の支援の質の向上につなげていく。 今後も様々な資格の取得を目標にして、さらなるスキルアップを目指す。
2	個別支援の特性から個々の利用者にあった療育の提供がしやすくコミュニケーションを密に取ることが出来る。	1対1の個別療育なので動作や状態の評価を丁寧に行うことが出来ている。	利用者に対する評価を掘り下げて行い、様々な課題を試行していく。
3	粗大運動の取り組みを活発に行っている。	道具や教材が充実しており、運動スペースが充分に確保されている。	1つの道具や教材から複数の遊びを提案するためにいろいろなアイデアの情報収集を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育なので集団でのかかわりを経験する機会が少ない。	個別療育を一番のメリットとしているため	必要な場合においては同時間に利用している他児と交流する機会を設けたり他の職員と関わる機会を増やす。小集団のイベントへ参加する機会を設ける。
2	保護者同士の交流の場がもう少しあれば良い。	1日の支援数の上限や日程調整が難しいため。	きらり広場の活用などで交流の機会を設ける。
3	教材が元の場所に返されていないことがある。	細々としたおもちゃが多くあるため。	定期的に不要な教材を処分する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 16

回収数 16

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	3	0	1	身体を動かせるスペースはあるが、もっと走り回れるぐらいのスペースはあってもいいかとは思いますが。	限られた環境の中で、身体を動かせるスペースを確保するために用具の収納の工夫に勤めている。お子様が怪我をしないように安全面の環境整備にも配慮している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	4	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	1	0	0	いつも綺麗に整頓されている。きれいに掃除もされている。	職員全員で毎日清掃を実施して感染症予防の対策も行っている。今後も清潔で心地よい生活空間を整えるように努める。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	3	0	1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	0	0	1		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	2	0	1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	4	0	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	3	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	6	0	1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	3	3	2	同じ年齢ぐらいの子とは、まだ交流がないです。時間も決まっているため、難しいと思うがまた交流の機会などがあれば嬉しいです。	イベントなどで同年代のお子様との交流が出来るように案内をする。また、同じ年齢位のお子様と同時刻で療育を行う場合には交流が出来るような工夫をする。
保護 者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	4	3	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	11	4	0	1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	4	1	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	3	0	1		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	3	2	7		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	5	1	3		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	5	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	5	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	1		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2	1	3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	5	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	3	1	4		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	16	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	1	0	0	嫌がらず楽しんで通ってくれているので、このまま様子をみたいと思います。	楽しんでいただけることがお子様にとっても大事なことだと思うので、今後も楽しみながら療育の質の向上に努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	4	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られたスペースを活用して運動等の課題にも取り組む工夫をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令を遵守した配置である。	職員の配置には余裕がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		仕切りを活用して環境整備が出来ている。トイレや教室内はバリアフリー化されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		感染予防の観点から毎日清掃消毒を行い、設備の点検等、安全対策に取り組んでいる。	教材の整理整頓に努めさらに環境を整えたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてこどもが療育する教室を選択することができるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		事業所内で会議等を実施し、目標設定や振り返りを行っている。	事例検討や支援を評価する機会を増やしていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者へのアンケートを実施し、業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で会議や定期的な面談等の機会を設けて業務改善に努めている。	個別の面談や会議の機会を増やす工夫を行い、さらにコミュニケーションを取れるようにする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は利用者、社内従業員の2者評価	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		発達支援研究所による定例研修、その他各種の内部研修を実施している。	外部の研修への参加や他事業所の見学の機会を増やす。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的にあセスメントを行い、児童発達支援計画の作成をしている。	発達検査の結果やアセスメントは職員全員で共有し、支援に活かせるようにしている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		こどもの支援にかかわる職員全員で児童発達支援計画作成会議を行い作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画は職員間で共有を行い、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。また、日々の支援で利用者の行動を観察し共有している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインの内容を踏まえて、個々のニーズに合わせた項目を設定したうえで支援内容を設定している。	利用者の状況に合わせた具体的な支援計画を作成することを心掛けている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で話し合いを行い、立案をしている。様々な意見を取り入れやすい環境になっている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お子様の様子やニーズ、課題に合わせて支援内容を変化させるように工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	基本は個別療育だが、お子様それぞれの特性や状況に合わせて小集団の療育を適宜組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		個別療育のため役割は無いが、その都度情報の共有を行い確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後の情報共有に努めている。就業時間の関係で間際まで支援していた場合は翌営業日に共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の支援記録を残し、振り返りも行いながら全体でいつでも情報共有や確認ができるシステムである。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月以内にモニタリングを実施し、個別支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と担当職員（場合によってはどちらか）が出席して他機関との連携を図っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の希望により動ける体制を取っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		相談支援事業所を中心に、情報の共有・相互理解を行い、移行支援を行えるように意識している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			必要に応じて情報提供できる体制を整えている。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		児童発達支援センター主催の研修に参加をしている。また必要に応じて発達検査の結果等の共有をしてもらい支援についての助言を受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	今のところ交流の機会はない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の支援終了後に保護者への振り返りを実施している。事業所内の家族支援で相談を受けている。	ご家庭や園での様子の情報共有を心がけている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		振り返り時に家庭での対応方法について相談を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規定・重要事項説明書を事業所内に掲示し、支援プログラムはHPに公表している。契約時には利用者負担額の説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		6か月ごとの計画の見直しの際に保護者とお子様からのご意見ご要望をお聞きしている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を提示し、内容の説明を行ない、保護者の同意を得てサインをもらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者に支援を見学してもらい、毎回の振り返り時に相談援助を行っている。また、モニタリング時にも相談援助を行っている。	事業所内での家族支援の案内もその都度行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	親の会の活動やイベント情報を教室内に掲示して情報提供を行っている。	今後の要望や必要に応じて保護者同士の交流の機会を検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		毎回の支援後の振り返り時や事業所内での家族支援を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。			ブログ、インスタグラムを中心に、毎月のきりり通信、教室掲示板を活用して情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載された書類や端末は鍵付きの書庫に保管し、職員全員で取扱に注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			お子様や保護者の状況に応じてわかりやすい意思の疎通・情報伝達を意識している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所の行事に地域住民を招待することはない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは職員と保護者に配布している。月に1度防災訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に訓練の実施に努めている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントを取る際に持病や服薬、てんかん発作等について確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供はしていないが、アレルギーについてはアセスメント時に確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、定期的な点検や訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			緊急連絡先を伺い緊急時の連絡がとれる体制を整えている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、自校舎はもちろん他校舎とも共有することで安全性への意識を高め、大きな事故を未然に防ぐように注意している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置して研修・話し合いを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明をし、やむを得ず身体拘束を行う場合は個別支援計画に記載している。	